

智福山法輪寺は渡月橋の南にあり、真言宗にして、本尊は虚空蔵菩薩の坐像なり。〔道昌法師の作〕脇士は明星

天雨宝童子なり。

続 千 更行ば鐘のひゞきも嵐山空に聞えてすめる月かな

高 道

夫当寺は天平年中の建立にして葛井寺といへり。〔天慶の頃空也上人こゝに住て旧寺を修造し、念仏常行堂とす〕中興の開基は道昌僧都、姓は秦氏にして讚州香川郡の人なり。弘法大師に真言の密法をうけ、虚空蔵求聞持の法を修せんとて、此寺に一百日参籠し給ふ。五月の頃皎月西山に隠れ、明星東天に出る時、闕伽水を汲に、光炎頓に耀て明星天衣の袖のうへに来影し、忽虚空蔵菩薩と現れ給ふ。縫の如く染るが如く、数日を経といへども其体滅せず、是生身の尊影なりとて、道昌則ち虚空蔵菩薩の像を刻、袖の像を腹内に収らる。此時弘法大師を請して開眼供養し給ふ、是当寺の本尊なり。貞観十六年に阿弥陀堂を改て法輪寺と号す。

落星井〔又明星井ともいふ、本堂の南にあり。井のうへに社を建て明星天をまつる。道昌此井にて垢離し給ふとき星くんだりけるとなり〕轟橋〔楼門の前にかくる橋をいふ〕

参籠堂〔都の工職人此所に籠り一七日断食し、瀧に垢離し、本尊に智福を祈る、近年断食の輩つねにたえまあらず〕